

バスケットボールプラザ

Basketball Plaza

No.70



2016 年 5 月

NPO 法人 日本バスケットボール振興会



For the real game

「プレーヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」
私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに
世界に類のない、ボールとスポーツエキップメント・メーカーとして
常に完璧な製品づくりを目指しています。



目 次

○ 理事会と定期総会を開催	2
○ 会報「プラザ」70号の発行に寄せて 1978年から40年余り、時代とともに歩み重ねる	15
○ 会報 第1号から70号までの変遷	16
○ リオ・オリンピックに向かって（女子日本代表） 頑張れニッポン・アカツキファイブ	19
○ リオ・オリンピック女子バスケットボール 組み合わせ全日程が決まる	20
○ リオ・パラリンピックに向けて（車椅子） 車椅子バスケットボール連盟から皆様の支援に感謝	21
○ 日本バスケットボール殿堂 殿堂の設立を提唱する	22
○ ミニ・中学生クリニックに協力 東京都目黒区立中央体育館主催へ講師派遣	25
○ 人物抄 日比野 明さん	27
○ 会員だより 「SOS」5周年記念祝賀会 『老師』と呼ばれて バスケットボール湘南だより（その14） 61年ぶりの再会 沖縄県立糸満高校と愛知県立明和高校	30 32 34 36
○ TK・bjリーグ終決 11年間にわたるプロリーグが有終の美	39
○ NBLも最終ファイナルへ	41
○ 訃報・事務局だより	42
○ プラザこぼればなし	43

理事会と定期総会を開催

[編集部]

平成27年度事業活動報告と収支決算、平成28年度事業計画案ならびに予算案、および平成28・29年度役員について定例の理事会と総会が開催され、いずれの議案についても原案通りに可決承認された。

[理事会]

開催日時 平成28年4月21日(木) 18時～19時30分
開催場所 東京都千代田区神田神保町1-40 豊明ビル3F
NPO法人日本バスケットボール振興会事務所
出席者 (敬称略五十音順)
会長 佐室有志
副会長 阿部 進 小澤正博 日々野 明
理事長 渡辺 誠
副理事長 蒲田尚文 上谷富彦 杉山絹枝
理事 川戸政角 草階勇人 坂本 博 佐々木政治 佐藤精孝
渋谷美由紀 羽佐田恭正 橋田龍太郎 結城昭二
監事 大野龍一 黒川敏雄

[総会]

開催日時 平成28年5月20日(金) 15時～16時
開催場所 東京都千代田区神田駿河台 池坊東京会館
出席者 顧問、会長、副会長、理事長、副理事長、理事、監事、会員29名
会員総数203名に対し、出席29名、委任状提出91名で会員数の過半数により総会は成立
議事録署名者 小澤、渡辺の2名

[佐室会長総会挨拶]



今総会も顔見知りの方々に多数出席いただき感謝申し上げます。日本のバスケットボール界もようやく落ち着きとまとまりを取り戻してきました。

日本協会も三谷会長と大河専務理事の新体制となるようです。男子トップリーグもbjリーグは終了し、NBLもまもなく終了します。そして両リーグとも2016シーズンからBリーグとして一本化されて新発足することになっています。

振興会としましても新しい体制のJBAと緊密に連携し、バスケットボール界の活性化を図っていきたいと考えます。

そのためには底辺の強化と発展が必要であり、それに向かって皆で努力していくことが求められますのでよろしくお願いいたします。

本日は総会ということで忌憚のない議論をいただきたいと思います。

〔議 事〕 上記両会議とも共通

第 1 号議案 平成 2 7 年度事業活動報告 渡辺理事長

平成 2 7 年度の事業活動報告は資料の通りですが、主な項目について説明いたします。



1. 日本協会への協力と提言

この春、日本協会事務所が五反田から東京文京区飯田橋へ移転したことに伴い、日本協会倉庫に保管されていた膨大な資料類の整理と資料索引を作成し引き渡しました。昨年 1 1 月の講演会では新専務理事の大河さんを招聘して、協力関係の充実を図りました。

2. 組織の充実と財政の確立

会員の増強を図り、各種助成事業などの見直しを実行した結果、年間収支が黒字となりました。

3. シニアバスケットボール、障害者バスケットボールなどの支援する

昨年同様全国シニア交歓大会の実施、シニア大会への助成、S O（スペシャルオリンピックス）大会への審判派遣などを行いました。

4. バスケットボールの広報・啓発活動を推進

会報誌の定期的発行や「バスケットボールの日」記念事業などに協力しました。

5. 日本のバスケットボール界における歴史の調査研究と資料の保管

昨年発足した日本バスケットボール学会に協力、先輩方が残した各種資料の収集を行いました。

6. 会員相互の交流を図る

春の総会後の交流会、秋の講演会後の懇親会を始め、シニア大会などの場でも会員相互の交流に力を入れました。

各部別活動報告

部名	内 容 業	事業目標	事業計画	事業実績
総務部	振興会活動の発展支援	1) 通常総会 (於:池坊東京会館)	・ 2 6 年度活動報告 /同左決算報告 ・ 2 7 年度活動計画 /同左予算案 ・ 春季交流会	・ 5 月 15 日 (水) 池坊東京会館で開催、 交流会に、35 名参加
		2) 秋季講演会 (於:池坊東京会館)	・ 2 7 年 1 1 月 講演会 および秋季交流会	・ 11 月 5 日 (木) 日本協会大河専務理事 ・ 事務総長を講師に迎え 池坊東京会館で、開催 58 名参加
		3) 理事会 (於:振興会事務所)	・ 原則、2 回/年 開催 (於: 振興会事務所)	・ 4 月 21 日、12 月 9 日 開催
		4) 正副部長会	・ 原則、 3 ヶ月に 1 回開催 (於: 振興会事務所)	・ 7 月 14 日、9 月 17 日、 2 月 4 日、3 月 17 日 開催 9 月 17 日には Sport for smile 創業者 代表梶川三枝氏を迎え、

				事務所で勉強会を実施
		5) メルマガの内容充実と会員の増強キャンペーンの実施	・広報部、編集部の協力の下、3ヶ月毎に発信 ・会員増強PTの検討を踏まえた可能な施策の検討	・発信先 117 名 ・個人会員：全国シニア交歓大会他で 15 名が新規加入

広報部	振興会の周知による会員増強施策	1) 本会の活動を多くのバスケットボール愛好者に正しく理解して頂く	・公式ホームページの下記項目の更新 ・国際大会、全国大会のスケジュールをカレンダーに掲載 ・振興会の活動予定、活動内容の告知	・ホームページ内で各事業項目を実施
		2) 本会の会員であることのメリットをアピールする	・総務部と連携してメルマガジンの会員を増やして発信 ・プラザの発行直後にメルマガを配信	・プラザ発行後にメルマガ配信
		3) 日本協会と連携し、バスケットボール資料のデータベースを作成する	・日本協会の資料室内の資料を整理する	・継続作業中
		4) 若年層バスケットボール愛好者にも訴求する広報の内容・手法を検討する	・事業目標に向けた具体的検討 ・入会促進カードとリーフレットのリニューアル	・今期は検討中
		5) その他	・家庭婦人の大会プログラムへ広告掲載 ・月刊バスケットボール誌を希望会員への配布 ・「映像に見る日本バスケットボールの歴史」などの開催企画	・計画通り実施 ・計画通り実施 ・今期は検討中

歴史部	バスケットボール協会の歴史的情報の収集と周知	1) 歴史的資料の収集・保管を継続	・歴史的資料の収集と保管を行う	・継続実施
		2) 過去のオリンピック出場者の歴史検証	・男子 メルボルン・ローマ・ミュンヘン・モントリオール ・女子 アトランタ・アテネ・モントリオール ・女子出場選手にアンケート調査、まとめ	・モントリオールのオリンピック女子の記事を掲載(プラザ No. 67)

			・2020年東京オリンピック開催に向け、上記大会に出場した選手、役員、審判の方々の座談会形式による取材とプラザへの発表	
		3) 新企画のテーマとして競技施設の歴史的検証を取り上げる	・競技施設の歴史的検証、ボール、バックボード、リング、ネット、コート等順次取り上げ	・ボールの歴史を紐解き、ボールメーカーを訪問取材、28年度プラザ掲載準備中

編集部	会報「バスケットボールプラザ」の編集と発送	1) 年間4回の定期発行 (5月、8月、11月及び翌年2月)	・掲載記事の充実のため各号3回以上の会議を開催	・計画通り実施
		2) 関連する協会・連盟等の取材記事充実	・障害者関連、3x3、ストリートバスケットなどを含む団体と連携を密にして積極的に取材	・取材充実度に注力
		3) 掲載記事内容の拡張と充実	・掲載記事の積極的収集 ・振興会内部の各部門と連携して案件を授受し、特集記事に作成して編集 ・振興会会員に参加していただくバスケット関連記事の発掘(情報提供、問題提起、建設的意見交換、自身の奮闘記事などの提供呼掛け) ・その他、会報に適切な記事の発掘	・記事充実度に注力
		4) 有料掲載広告の獲得	・広く会員にお願いして種々の業種・団体と交渉 ・前年度実績以上の獲得を図る	・2社(日本建築センター&高木本社)の新規広告に成果あり

普及部	バスケットボール競技の普及・支援	1) 全国シニア交歓大会の開催とシニアバスケットボール活動の助成	・代々木第二体育館で全国シニア交歓大会の開催(6月26日・27日)と助成 ・全国ゴールデンシニア交歓大会横浜カップ大会の助成	・計画通り実施、男子9チーム、女子4チーム201名参加、懇親会にも105名参加 ・1万円助成
		2) 障害者バスケットボールの活動支援	・スペシャルオリンピックスの活動支援	・2015年スペシャルオリンピックス夏季ロスアンゼルス大会出場選手に対し、

				相手チームへのお土産として、井上雄彦氏作成のポストカードを送る ・2016年3月、認定特別非営利法人スペシャルオリンピックス日本・東京から感謝状
		3) 中学生バスケットボールクリニック開催への協力	・中学生バスケットボール（初心者向け）クリニックに協力（世田谷区、目黒区、横浜市、習志野市、京都市） 「シュートを上手になろう」とテーマを絞って開催	・世田谷区(5月10日)、京都市(5月17日)にそれぞれ実施。 ・目黒区では、区立中央体育館主催の小中学生対象クリニックに協力(3月21日)

事務局	事務運営の効率化	1) 会員の名簿管理 会費の管理	・会員の名簿管理、会費の管理と併せて会費の徴収を迅速に実施	・同左実施
		2) 事務所、事務処理の効率化	・コピー機の共用等事務所移転を踏まえ、事務所、事務運営の効率化を図る	・同左実施
		3) 事務所の外部団体、貸し出しの有料化	・事務所の外部団体貸し出しについて有料化の検討	・同左実施
		4) その他		・スペシャルオリンピックスへ貸し出し、3万円の賃料収入あり ・2015年9月熱中症声かけプロジェクト「ひと涼みアワード」2015 有料声かけ賞／スポーツ部門 受賞

平成27年度会員動向

	平成26年度末 (H27.3.31)	平成27年度末 (H28.3.31)	増減	備考
個人会員	196名	203名	7	新規会員16名 退会者9名(内逝去者3名、 2年以上会費未納者4名)
法人会員	12社	11社	▲1	法人会員より個人会員 に変更

第2号議案 平成27年度収支決算報告 佐々木事務局長

NPO法人 日本バスケットボール振興会

特定非営利活動に係る事業会計収支決算書

平成27年4月1日～平成28年3月31日

単位：円

科 目	27年度予算	27年度決算	増 減	備 考
I 経常収支の部				
1. 経 常 収 入				
(1)会費収入				賛助会費内訳
正会員会費	1,800,000	1,697,000	▲ 103,000	26年度分 1社 50,000
賛助会員会費	600,000	500,000	▲ 100,000	27年度分 9社450,000
会費収入計	2,400,000	2,197,000	▲ 203,000	計 500,000
(2)事業収入				
広告掲載料	150,000	190,000	40,000	
月刊BB負担金	450,000	387,500	▲ 62,500	
各種販売益	0	0	0	
交流会・講演会	50,000	30,666	▲ 19,334	
シニア大会	300,000	335,000	35,000	
そ の 他	0	5,000	5,000	
事業収入計	950,000	948,166	▲ 1,834	
(3)寄 付 金	270,000	275,000	5,000	
(4)雑 収 入	60,000	137,171	77,171	
(5)受取利息	0	169	169	
経常収入計	3,680,000	3,557,506	▲ 122,494	
2. 経 常 支 出				
(1)事 業 費				
広報・啓発活動費	1,382,000	1,151,582	▲ 230,418	
普及支援活動費	600,000	565,025	▲ 34,975	
協力及び提言活動費	0	0	0	
調査・研究活動費	100,000	25,253	▲ 74,747	
その他活動費	50,000	70,000	20,000	
事業費計	2,132,000	1,811,860	▲ 320,140	
(2)管理費				
会議費	100,000	84,869	▲ 15,131	
通信費	150,000	151,739	1,739	
水道光熱費	60,000	50,466	▲ 9,534	
事務所借用費	720,000	688,651	▲ 31,349	
租税公課	0	0	0	
会員証作成費	0	0	0	
雑 費	0	0	0	
その他事務所運営費	490,000	537,785	47,785	
管理費計	1,520,000	1,513,510	▲ 6,490	
経常支出計	3,652,000	3,325,370	▲ 326,630	
経常収支差額	28,000	232,136	204,136	
II その他資金収支の部				
1. その他資金収入				
その他資金収入計	0	0	0	
2. その他資金支出				
その他資金支出計	0	0	0	
当期収支差額	28,000	232,136	204,136	
前期繰越収支差額	700,190	700,190	0	
次期繰越収支差額	728,190	932,326	204,136	

※ 平成27年4月の移転費用119,870円については、ユニオンハウジング(旧家主)より負担の為、上記収支には計上しておりません。

貸借対照表

特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

NPO法人 日本バスケットボール振興会

[税込] (単位:円)

2016年 3月31日 現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		未 払 金	18,580
現 金	2,597	その他事務所運営費	(18,580)
普通 預金	523,481	流動負債 計	18,580
三菱東京ＵＦＪ銀行	(417,560)	負債の部合計	18,580
みずほ銀行	(105,921)	正 味 財 産 の 部	
振替 貯金	224,529	【正味財産】	
ゆうちょ銀行	(224,529)	正味 財産	932,326
現金・預金 計	750,607	(うち当期正味財産増加額)	232,136
流動資産合計	750,607	正味財産 計	932,326
【固定資産】		正味財産の部合計	932,326
(投資その他の資産)			
長期 預金	200,299		
三菱東京ＵＦＪ銀行	(200,299)		
投資その他の資産 計	200,299		
固定資産合計	200,299		
資産の部合計	950,906	負債・正味財産の部合計	950,906

第3号議案 平成27年度監査報告

会計監査報告書

特定非営利活動法人 日本バスケットボール振興会の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの会計処理について監査の結果、適正に処理されていることを認めます。

平成28年4月21日

監 事 黒川敏雄
監 事 清水英邦
監 事 大野龍一

第4号議案 平成28年度事業活動計画 渡辺理事長

平成28年度事業計画について以下のような基本的方針が説明され、続いて各部長から下表の具体的事業計画が提案された。

1. 日本バスケットボール協会への協力と提言
日本バスケットボール協会の活動、事業への協力
2. バスケットボール競技団体への協力・支援
シニア、家庭婦人、障害者、ミニ、中体連など

3. バスケットボールの広報・啓発活動の推進

「12月21日はバスケットボールの日」委員会の活動支援、日本バスケットボール学会との連携など

4. 日本のバスケットボール界における歴史の調査研究と資料の収集

5. 組織の充実と財政の確立

会員の増強、助成事業などの見直しを実行し、財政の健全化を図る

6. 会員相互の交流を図る

各別事業計画

部名	事業内容	事業目標	事業計画
総務部	振興会活動の発展支援	1) 日本協会活動事業への協力と提言	・日本協会、Bリーグ等との関係の維持・強化
		2) メルマガの内容充実と会員の増強とキャンペーンの実施	・広報部、編集部の協力の下3ヶ月毎に発信 ・全国シニア交歓大会での積極的な勧誘他
		3) 会長・理事長の特命事項	・バスケットボールの新たな展開への課題の対応

広報部	振興会の周知による会員増強施策	1) 本会の活動を多くのバスケットボール愛好者に正しく理解して頂く	・公式ホームページの下記項目の更新 ・国際大会、全国大会のスケジュールをカレンダーに掲載 ・振興会の活動予定、活動内容の告知
		2) 本会の会員であることのメリットをアピールする	・総務部と連携してメールマガジンの会員を増やして発信 ・プラザの発行直後にメルマガを配信
		3) 日本協会と連携し、バスケットボール資料のデータベースを作成する	・日本協会オフィス引っ越しの機会に大幅に整理
		4) 若年層バスケットボール愛好者にも訴求するような広報の内容・手法を検討する	・事業目標に向けた具体的検討 ・入会促進リーフレットとカードのリニューアル
		5) その他	・家庭婦人の大会プログラムへ広告掲載 ・月刊バスケットボール誌を希望会員へ配布 ・「映像に見る日本バスケットボールの歴史」などの開催企画 ・タチカラ製バスケットボールハンドブックのWEB版作製を追加

歴史部	バスケットボール競技に関する 歴史情報の収集と周知	1) 歴史的資料の収集・保管を 継続する	・継続実施
		2) 過去のオリンピック出場の 歴史検証	・女子 アトランタ・アテネ出場の選手、 役員の座談会を行い、5月のプラザに 掲載
		3) 新企画のテーマとして競技 施設の歴史的検証を 取り上げる	・ボールの歴史を継続し、まとめ次第 プラザに掲載

編集部	会報「バスケットボールプラザ」の編集と発行	1) 年間4回の定期発行 (5月、8月、11月 及び翌年2月)	・掲載記事の充実のため各号3回以上の 編集会議を開催
		2) 関連する協会・連盟等の 取材記事充実	・日本協会をはじめとするバスケット ボール関連各種団体と連携を密にして 積極的に取材
		3) 掲載記事内容の拡張と充実	(掲載記事の積極的収集) ・振興会内部の各部門と連携して案件を授 受し、特集記事に作成して編集 ・振興会会員に参加していただくバスケ関 連記事の発掘(情報提供、問題提起、建 設的意見交換、自身の奮闘記事などの提 供呼掛け) ・その他、会報に適切な記事の発掘
		4) 有料掲載広告の獲得	・広く会員にお願いして種々の業種・団体 と交渉 ・前年度実績以上の獲得を図る



普及部	バスケットボール競技の普及・支援	1) 全国シニア交歓大会の開催とシニアバスケットボール活動の助成	・代々木第二体育館で全国シニア交歓大会の開催(5月31日・6月1日)と助成 ・全国ゴールデンシニア交歓大会横浜カップ大会の助成
		2) 障害者バスケットボールの活動支援	・障害者バスケットボールの活動支援
		3) 中学生バスケットボールクリニック開催への協力	・中学生バスケットボール(初心者向け)クリニックに協力(世田谷区、京都市、首都圏で1～2か所)、「シュートを上手になろう」とテーマを絞って開催 ・目黒区立中央体育館主催のクリニックに協力
		4) 「12月21日はバスケットボールの日」記念行事に協力	・代々木第二体育館で開催する記念行事開催に協力と助成を行う(12月14日)

事務局	振興会活動の運営支援・事業運営の効率化	1) 通常総会 (於：池坊東京会館)	・27年度活動報告／同左決算報告 ・28年度活動計画／同左予算案 ・春季交流会
		2) 秋季講演会 (於：池坊東京会館)	・28年11月講演会及び秋季交流会
		3) 理事会	・原則、年2回開催(於：振興会事務所)
		4) 正副部長会	・原則、3ヶ月に1回開催 (於：振興会事務所)
		5) 会員の名簿整理、会費の管理	・会員の名簿管理、会費の管理と併せて会費の徴収を迅速に実施



第5号議案 平成28年度予算

NPO法人 日本バスケットボール振興会

平成28年度特定非営利活動に係る事業会計収支予算書(案)

単位:円

平成28年4月1日～平成29年3月31日

科 目	27年度予算	27年度実績	28年度予算	対27年度増減	備 考
I 経常収支の部					
1. 経 常 収 入					
(1)会費収入					
正会員会費	1,800,000	1,697,000	1,800,000	0	
賛助会員会費	600,000	500,000	550,000	▲ 50,000	
会費収入計	2,400,000	2,197,000	2,350,000	▲ 50,000	
(2)事業収入		0			
広告掲載料	150,000	190,000	220,000	70,000	
月刊BB負担金	450,000	387,500	440,000	▲ 10,000	
各種販売益	0	0	0	0	
交流会・講演会	50,000	30,666	50,000	0	
シニア大会	300,000	335,000	325,000	25,000	
そ の 他	0	5,000	0	0	
事業収入計	950,000	948,166	1,035,000	85,000	
(3)寄 付 金	270,000	275,000	270,000	0	
(4)雑 収 入	60,000	137,171	60,000	0	
(5)受取利息	0	169	0	0	
経常収入計	3,680,000	3,557,506	3,715,000	35,000	
2. 経 常 支 出		0		0	
(1)事 業 費		0		0	
広報・啓発活動費	1,382,000	1,151,582	1,369,000	▲ 13,000	
普及支援活動費	600,000	565,025	615,000	15,000	
協力及び提言活動費	0	0	0	0	
調査・研究活動費	100,000	25,253	100,000	0	
その他活動費	50,000	70,000	50,000	0	
事業費計	2,132,000	1,811,860	2,134,000	2,000	
(2)管理費		0		0	
会議費	100,000	84,869	100,000	0	
通信費	150,000	151,739	150,000	0	
水道光熱費	60,000	50,466	60,000	0	
事務所借用費	720,000	688,651	720,000	0	
租税公課	0	0	0	0	
会員証作成費	0	0	0	0	
雑 費	0	0	0	0	
その他事務所運営費	490,000	537,785	490,000	0	
管理費計	1,520,000	1,513,510	1,520,000	0	
経常支出計	3,652,000	3,325,370	3,654,000	2,000	
経常収支差額	28,000	232,136	61,000	33,000	
II その他資金収支の部		0		0	
1. その他資金収入		0		0	
その他資金収入計	0	0	0	0	
2. その他資金支出		0		0	
その他資金支出計	0	0	0	0	
当期収支差額	28,000	232,136	61,000	33,000	
前期繰越収支差額	700,190	700,190	728,190	28,000	
次期繰越収支差額	728,190	932,326	789,190	61,000	

第6号議案 平成28・29年度役員

50音順

役 職	氏 名	備 考
会 長（理事）	佐室 有志	
副会長（理事）	阿部 進	
	大野 龍一	監事より新任
	小澤 正博	
	従野 明宏	
理事長	渡辺 誠	
副理事長	蒲田 尚史	
	上谷 富彦	
	佐々木政治	理事より新任
	杉山 絹枝	
理 事	草階 勇人	
	榊原 みどり	
	坂本 博	
	佐藤 精孝	
	篠原 正邦	新任
	島本 和彦	
	渋谷 美由紀	
	鈴木 進吾	
	羽佐田恭正	
	橋田龍太郎	
	深尾 秀次	
	諸山 文彦	
	結城 昭二	
監 事	黒川 敏雄	
	清水 英邦	

名 誉 顧 問	愛知 和男
	麻生 太郎
	住田 正二
	西室 泰三
	水野 明人
	矢野 哲郎
	和田 清美

顧 問	稲垣 安二
	小笠原義昭
	笹岡 太一
	関口 莊次
	都崎 修男
	手嶋 昇
	日比野 明

総会質疑応答

- A 女子日本代表がアジアで優勝してリオ・オリンピックに出場するにあたり、振興会がバックアップ活動に何も触れていないのはいかなるものか。
- Q 6月始めに発行するプラザ誌面で改めて取り上げることにしたい。

春季交流会開催

総会終了後に開催された恒例の交流会では、参加者が和やかなバスケット談義に花を咲かせた。

阿部副会長挨拶

先ほどの総会でも意見が出ましたが、今年はオリンピックイヤーであります。バスケットボール日本代表は、昨年女子がアジアを制して団体競技での出場権を最初に獲得し、男子についても世界最終予選の出場権を獲得しており、オリンピック出場について希望が残っています。

また、車椅子バスケットもアジア・オセアニア地区でパラリンピック出場権を獲得するという明るいニュースもありました。

これらのことは日本のバスケットボールが発展していることの表れであり、大変喜ばしい出来事と言えます。

振興会としましてもJBAに協力しながら、日本のバスケットボール界を更に盛り上げるべく力を合わせていく必要があるのではないのでしょうか。皆さん方の応援を期待しております。



交流会に参加された方々

会報「プラザ」70号の発行に寄せて

1978年から40年余り、時代とともに歩み重ねる

理事長 渡辺 誠



振興会会報誌「バスケットボールプラザ」は平成5年(1993)の振興会発足とともに独自の「振興会ニュース」として第1号が発刊され、その後の改称を経て本号で70号の節目を迎えます。

振興会が前身の「日本実業団バスケットボール連盟協力会」として昭和53年(1978)に発足した当時は、「実業団バスケット」「実業団バスケット協力会ニュース」及び「実業団バスケットだより」と「日本実業団バスケットボール連盟」の記事を中心に23回の発行を重ねています。

振興会として発足した平成5年(1993)からは「振興会ニュース」としてB5版8ページ程度で第1号から第12号までを発行し、平成12年(2000)12月の第13号から「バスケットボールプラザ」と名称変更してA4版に拡大されました。現在は40頁ほどの規模で年間4回、定期的(5月、8月、11月、翌年2月)に発行しています。

配布先は、「振興会の会員」を初めとして「公益財団法人日本バスケットボール協会」「都道府県協会」「日本協会の所属団体」「バスケット関係雑誌」「新聞社の担当記者」など多方面にわたり、さらに、「国立国会図書館」「秩父宮スポーツ図書館」「日本体育協会・資料室」などにも配布しています。

「プラザ」の内容は、「バスケットボールの大会記録」「バスケット界の現状分析」「日本のバスケットの歴史・文化」に関する記事など多岐にわたっています。例えば、「会員だより」「人物抄」「わが軌跡」「風神・雷神(意見)」「私の履歴書」「あの人この人」などの会員紹介記事、物故者の「追悼文」「追悼の記」「訃報」などの記事があります。開催した座談会「戦後初めての国際試合・ハワイAJAオールスター戦(1950)」では、出場した選手たちの記事などをまとめ、日本のバスケットの歴史的話題を歴史部会が調査研究した20編以上の記事も掲載しています。また、普及部など各部の活動状況報告記事が掲載されています。

今後は日本協会をはじめとするバスケットボール界の関連諸団体の記事をさらに充実させる所存です。

「バスケットボールプラザ」は、多くの関係者からバスケットボール界の貴重な情報機関誌として評価されていると考えています。3か月毎の発行には、多大な時間と努力が必要で、その成果である「バスケットボールプラザ」を発行する編集部の皆さんに心から感謝しております。

今後も、NPO法人日本バスケットボール振興会が「日本バスケットボール界の普及・発展」活動をするための一助として、「バスケットボールプラザ」がバスケット界にとって「振興会にしかできないこと」を提案・発信する会報誌であることを期待します。



実業団バスケットだより

会報 第 1 号から第 70 号までの変遷

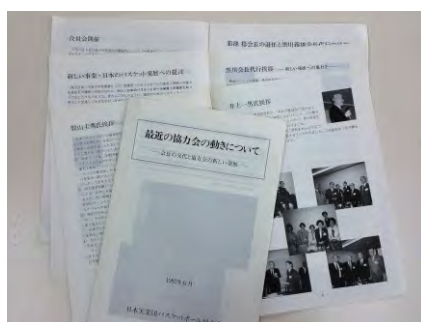
[編集部]

以下に、平成 5 年(1993)の第 1 号から第 12 号まで「振興会ニュース」として B 5 版 8 ページ程度のもの、その後続けて平成 12 年(2000)12 月の第 13 号から「バスケットボールプラザ」と名称変更し A 4 版に拡大されて発行されたものの年月と主たる記事を列挙する。

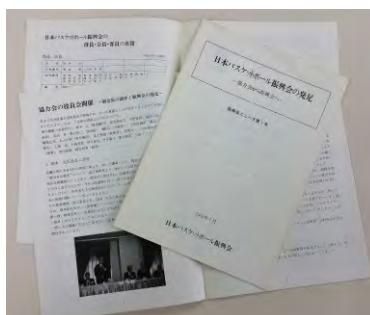
号数	発刊年/月	主 要 記 事 な ど
1	1993/ 7	振興会ニュースとして発刊開始 B 5 版 8 頁 表紙含め白色紙
2	1994/ 9	第 1 回役員会、役員会員一覧表
3	1995/ 8	役員会報告、牧山新会長豊富
4	1996/ 3	振興会の方針と事業計画、役員会員一覧表、年間 2 回発刊へ
5	1996/ 9	役員会報告、振興会規約
6	1997/ 4	理事会報告、日本リーグ発展構想、表紙がカラーとなる 2 4 頁
7	1997/ 8	住田会長就任挨拶、春季役員会、各組織団体会長懇談会
8	1998/ 1	秋季役員会、理事会、振興会規約改訂
9	1998/ 8	春季理事会、第 1 3 回女子世界選手権、日本家庭婦人連盟創設
10	1999/ 4	秋季理事会役員会、春季理事会、振興会案内
11	1999/ 9	春季役員会、JBL 新構想、WJBL 新構想、他 4 8 頁
12	2000/ 5	理事会・役員会報告、韓国 K B L 情報、観客動員問題について
13	2000/12	B 5 版から A 4 版へ改訂、誌名をバスケットボールプラザに変更
14	2001/ 4	春季理事会報告、振興会規約改訂、観戦記 年間 3 回発刊へ
15	2001/ 7	定期総会報告、特集「日本協会新男女強化部長」取材、観戦記
16	2001/12	秋季理事会報告、特集「ミニバス」観戦記 表紙デザイン変更
17	2002/ 4	春季理事会報告、観戦記、特集「笛の世界」
18	2002/ 7	定期総会報告、講演会
19	2002/12	秋季懇親会、特集「日本協会石川専務理事」取材
20	2003/ 4	春季理事会報告、特集「普及問題」協会理事&普及部会
21	2003/ 7	総会報告、特集「アテネ・オリンピックを目指して」 HD 内海氏、AC 萩原氏
22	2003/12	秋季理事会、特集「日本協会佐藤専任コーチの方針」
23	2004/ 4	春季理事会、特集「盛り上げよう日本のバスケット」記者座談会
24	2004/ 7	女子日本代表オリンピック出場紹介、特集「日本協会大高広報部長」
25	2004/12	アテネ・オリンピック女子 HD 内海氏、審判須黒氏取材
26	2005/ 4	特集「全日本 4 連覇」アイシン鈴木 HD、記者からの特別寄稿
27	2005/ 7	特集「プロバスケット発足の展望」日本協会副会長取材、 定期総会報告
28	2005/12	愛知会長就任、特集吉井四郎氏の足跡、臨時総会報告

29	2006/ 4	FIBA 世界選手権大会日本開催予告、特集「東海大学インカレ初優勝
30	2006/ 7	FIBA 世界選手権大会日本開催予告、特集「畑龍雄氏」 定期総会報告
31	2006/10	FIBA 世界選手権大会日本開催、特集「J A L R A B B I T S」
32	2007/ 1	アジア競技大会結果、全日本総合選手権大会、年間 4 回発刊へ
33	2007/ 5	特集「日本鋼管の 9 4 連勝」定期総会報告、N P O 法人化、 広報部から編集部発足
34	2007/ 7	男女 FIBA アジア選手権結果、日本協会紛糾混乱
35	2007/11	ベルリン・オリンピック史、トップリーグ開幕、事務所移転
36	2008/ 2	スペシャルオリンピックス支援、全日本総合選手権大会
37	2008/ 5	尾崎正敏氏の忍者ディフェンス特集、女子日本代表強化状況
38	2008/ 7	FIBA 女子オリンピック最終予選、理事長交代
39	2008/10	日本協会新役員体制
40	2009/ 2	秋季講演会、発刊月を年間 4 回に定期化
41	2009/ 5	定期理事会・総会報告、ハワイ A J A チーム来日懐古
42	2009/ 8	東アジア男子選手権純優勝、全国シニア交歓大会報告
43	2009/11	女子日本代表世界選手権出場権獲得、講演会
44	2010/ 2	全日本総合選手権大会、東アジア競技大会男女結果
45	2010/ 5	定期理事会・総会報告、リンク栃木 J B リーグ初優勝取材
46	2010/ 8	男女日本代表強化、浜松東三河 b j 初優勝・中村 H D 取材
47	2010/11	女子世界選手権結果、講演会
48	2011/ 2	全日本総合選手権大会、アジア競技大会結果
49	2011/ 4	東日本大震災発生の影響により不規則特別発刊、各種大会中止
50	2011/ 5	定期理事会・総会報告
51	2011/ 8	全国シニア交歓大会報告、女子日本代表強化状況
52	2011/11	FIBA 男女アジア選手権大会、渋谷バスケットボールストリート
53	2012/ 2	全日本総合選手権大会、講演会
54	2012/ 5	定期理事会・総会報告、佐室会長就任、女子日本代表強化状況
55	2012/ 8	ロンドン・オリンピック世界最終予選敗退、 全国シニア交歓大会報告
56	2012/11	講演会、国際審判 O B 座談会
57	2013/ 2	全日本総合選手権大会、「女子バスケット世界の動向」内海 H D 取材
58	2013/ 5	定期理事会・総会報告、全国シニア交歓大会報告
59	2013/ 8	表紙デザイン変更とカラー化、各頁の紙質向上による写真の鮮明化
60	2013/11	女子日本代表アジア制覇、世界選手権出場権獲得
61	2014/ 2	全日本総合選手権大会、1964 東京オリンピック座談会
62	2014/ 5	定期理事会・総会報告、1964 東京オリンピック座談会、理事長交代

63	2014/ 8	全国シニア交歓大会報告、男子統一プロリーグ創設へ向け話し合い
64	2014/11	FIBA 女子世界選手権大会、アジア競技大会、講演会
65	2015/ 2	全日本総合選手権大会、J B A国際大会出場停止処分
66	2015/ 5	定期理事会・総会報告、JAPAN TASKFORCE の動き
67	2015/ 8	J B A国際資格停止処分解除、全国シニア交歓大会報告
68	2015/11	女子日本代表アジア制覇、オリンピック出場権獲得、講演会
69	2016/ 2	全日本総合選手権大会
70	2016/ 6	節目の70号となる



バスケットだより 1992 年 6 月号



振興会ニュース第 1 号

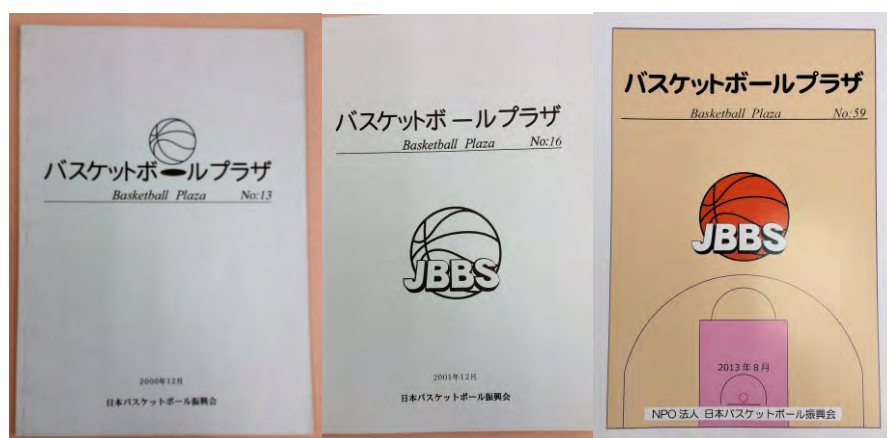


発刊当初の振興会ニュース

発刊当初はごく一部の方に頼っていた編集業務も、平成10年(1998)から広報委員会を組織して発刊するようになり、平成15年(2003)から組織を広報部から編集部として独立改名し現在に至っている。

発刊にあたっては、事前の編集方針企画策定、原稿収集、ワープロ加工、記事校正、印刷業者への発注、完成後の送付作業などで編集部員は多忙を極める。バスケットボール界がいろいろと変化してきた歴史についても、常に情報を正確に読者へ伝えるための努力を怠らずにやってきたことが、最近の評価につながっているようである。

これからもバスケットボール界の情報を正確に伝えることを惜しまず、振興会発展に寄与できるよう編集部員一同がさらなる努力を傾注していく。



2000 年 12 月号

2001 年 12 月号

2013 年 8 月号

リオ・オリンピックに向けて（女子日本代表）

頑張れニッポン・アカツキファイブ

[編集部]

4月11日に決定が発表された愛称「アカツキファイブ」の女子日本代表は8月5日からブラジル・リオデジャネイロで開催されるオリンピック競技に向けて第1次（4月9日～20日）と第2次（4月25日～5月11日）の強化合宿を終了している。

第2次強化合宿では、戦術の拡大と発展、外国人選手との対戦を通じた「個の強化」と選手の見極めとして、世界ランク2位のオーストラリアを迎え、「三井不動産 BE THE CHANGE CUP」の3戦を41－80、55－81、73－84の連敗で終えた。日本代表は渡嘉敷選手を欠いたチームであったが、10cm以上の平均身長差が克服できず完敗を喫した。

第3次強化合宿（ヨーロッパ遠征）では、5月16日～21日の味の素ナショナルトレーニングセンターでの合宿を経て、5月22日～28日にフランス・アンジュ、5月29日～6月6日にベラルーシ・ミンスクにおいて「実戦における戦術の錬成と確立、外国人選手との対戦を通じた「個の強化」と選手の見極めをする」としている。

それ以降第4次、第5次は、実戦における戦術の実践と応用・発展を、第6次は南米で各対戦国に合わせた戦略対策、コンディショニング（時差対策、現地環境への適応）、更に大会期間中、本戦における対戦国へのアジャストと試合毎の戦略の組み立てを、それぞれのテーマにして下記の日程が組まれている。

[第4次強化合宿]

6月16日(木)～30日(木)、チェコ・プラハへ遠征

[第5次強化合宿]

7月2日(土)～10日(日)、味の素ナショナルトレーニングセンター他にて壮行試合、

[第6次強化合宿]

7月14日(木)～16日(土)、味の素ナショナルトレーニングセンターにて

7月17日(日)～27日(水)、アルゼンチン・ブエノスアイレスにて

7月28日(木)～31日(日)、ブラジル・サンパウロ(予定)にて

8月1日(月)～4日(木)、ブラジル・リオデジャネイロにて

[オリンピック本番]

8月6日(土)～20日(土)

詳細の日程は別紙に登載される。

リオ・オリンピック女子 バスケットボール

組み合わせ全日程が決まる

[編集部]

2016年リオデジャネイロで開催の女子オリンピックバスケットボールトーナメント全日程が5月19日(木)にFIBAから発表された。ちなみに、フランスで6月13日(月)～19日(日)に開催される参加資格取得の選手権大会(世界最終予選大会)での上位5か国がオリンピック参加資格を得て、空きのポジションを埋める。

[グループ分け]

グループA	
1	最終予選5位
2	日本
3	ブラジル
4	オーストラリア
5	最終予選3位
6	最終予選1位

グループB	
1	カナダ
2	最終予選4位
3	アメリカ
4	セネガル
5	セルビア
6	最終予選2位

[日本の日程]

8月 6日(土) 対 最終予選3位
8月 8日(月) 対 ブラジル
8月 9日(火) 対 最終予選1位
8月11日(木) 対 オーストラリア
8月13日(土) 対 最終予選5位

[ファイナル日程]

8月16日(火) クォーターファイナル(準々決勝)
8月18日(水) セミファイナル(準決勝)
8月20日(土) ファイナル(決勝・三位決定戦)

世界最終予選大会の上位国は、ヨーロッパを主とする世界のトップクラスであり、勝利するのは容易ではない。しかし、内海ヘッドコーチがメダル獲得を目標にしている通り、最善を尽くして2020東京オリンピックへ希望をつなげてもらいたい。振興会全員で勝利を祈念し応援しましょう。

リオ・パラリンピックに向けて（車椅子）

車椅子バスケットボール連盟から皆様の支援に感謝

[普及部]

「三菱電機 2015 IWB F アジア・オセアニアチャンピオンシップ千葉」が 2015. 10. 10. ～ 10. 17. に千葉市ポートアリーナで開催され、男子日本代表がリオへの出場権を獲得した記事は、プラザ No. 6 8 (11 月号)に掲載されている。このたび、一般社団法人日本車椅子バスケットボール連盟会長の玉川敏彦氏から上記大会について寄稿をいただいたので以下に提供する。

リオ・パラリンピックに向けて

一般社団法人日本車椅子バスケットボール連盟（JWB F）は初めての試みとして国際大会の開催を日本連盟として開催しました。競技団体主催（国際大会）としては初めてのことに聞いています。

初体験の大会のため、内閣府の平田室長さんからの紹介で千葉市の副市長さんを紹介いただき、副市長さんを介して千葉市長の熊谷さんから全面的に支持をいただきました。

今大会には、アジア・オセアニア地区の執行役員と事前打ち合わせをしていましたが、大会直前に事務局長の辞任、会長の罷免等で、アジア・オセアニア東地区副会長の私が会長代行として対応させていただきました。

大会運営についてはIWB Fのモーリンオチーチャドさんからの助言を頂きました。今大会には男子12か国、女子3か国の参加をいただき、出場権の争奪戦となりました。男子参加国は、日本代表、アフガニスタン代表、オーストラリア代表、中華人民共和国代表、イラン代表、大韓民国代表、マレーシア代表、フィリピン代表、サウジアラビア代表、タイ代表、チャイニーズタイペイ代表、およびアラブ首長国連邦代表です。女子参加国は、日本代表、オーストラリア代表、および中華人民共和国代表です。残念ながら女子日本代表は3位と出場権を得ることはできませんでしたが、男子日本代表は韓国と激戦のすえリオへの切符を得ることが出来ました。

この大会により、多くの市民並びに関係者の声援が力になったことや、車椅子バスケットボールの魅力が（競技）スポーツとしてアピールできたと思います。

今回の大会にご支援いただいた千葉県、千葉市、特別協賛として三菱電機株式会社様、協賛としてサントリーホールディングス株式会社様、その他多くの企業様からご支援いただきました、改めて感謝申し上げます。

一般社団法人日本車椅子バスケットボール連盟（JWB F）
会長 玉 川 敏 彦

日本バスケットボール殿堂

殿堂の設立を提唱する

会員 山見 博康



- 日本バスケットボール協会（JBA）は、「日本バスケットボール殿堂」（Japan Basketball Hall of Fame）設立を宣言し、設立準備を開始。同時に都道府県協会に対し、「都道府県の殿堂」設立を推奨するよう提唱します。
- 都道府県協会は、夫々「殿堂」設立を宣言し、設立準備を開始するよう提唱します。

このことは私が過去2年以上いろいろな機会において提唱し続けていますが、日本協会ではまだ実現せず、昨年10月私案に賛同した神奈川県協会（柿沼憲一会長）が「県の殿堂」設立を宣言し現在準備中。神奈川に続いて各都道府県有志の設立宣言を期待しています。

この機会に提唱の理由を明らかにし、多くの方々に殿堂の必要性について理解を深めて、是非とも早期実現促進にご支援協力頂きたく存じます。

「殿堂（Hall of Fame）」は、偉大な指導者、レフェリー、選手、特別功労者の栄誉を称え、その歴史を永遠に記憶に留める為のものです。殿堂入りに際し、多くのレジェンドの名声が変わって世に知れ渡り、その選考過程から発表に至るまで活発なメディア報道によりそのスポーツの愛好者のみならず国際（国民）的話題となることは周知の通りです。米国には近代バスケットボールを形作ったジェームス・ネイスミスの名前を冠して「ネイスミス・メモリアル・バスケットボール殿堂」があり、FIBA 殿堂はスペインにあります。日本スポーツ界には野球、ゴルフ、サッカーしかなく、今こそ4番目としてバスケットの殿堂設立を、しかも我がバスケだけが他に先駆けて都道府県殿堂設立を提唱するものです。

I 殿堂設立を思い立った経緯

1. 日本協会との関わりは、2012年12月大阪桜宮高校事件を機に2013年初め裁定委員会が設置さ

れ、委員長を拝命してからです。その機に多くの関係者の話を聞いた結果、バスケット界が長年に亘って混乱し、その発展が阻害され、子供達に夢・憧れを与える事が出来ないことに驚き、失望しました。バスケット界には、互いへの尊敬の心、先輩を敬い功労者を讃える気風も培う仕組みもなく、一貫したビジョンを目指す風土もバスケットを愛する心の統一もない。そこに混迷を深める根本要因があるのではないか？との疑問を抱いたのです。



The Naismith Memorial Basketball Hall of Fame
マサチューセッツ州スプリングフィールド

2. 「こんなことがあってはならない！」と思ったのは、2014 年 1 月天皇杯を観に行った時です。来賓席で観戦中の元オリンピック選手の中に憧れの元住金海保宣生選手も（初めてお会いしたのは大学 4 年の 1967 年、増田（現姓：木内）貴史選手始め名選手を何人も擁する住友金属のトライアウトに参加した時）、早速、挨拶に行き初めての握手に感激しました。しかし、その他のレジェンドは？というと、若い人に握手やサインを求められる訳でもなく、観客に紹介され拍手を受けることもない・・・「今の人知られていないのだ！」「往年の栄光はいずこ？」「華やかな選手時代に比して実に寂しそうだなあ」とショックでした。そして培った経験を発揮できる場もなく、公的にも認められず無念にも世を去ることに・・・。（実際、海保選手は昨年他界！）

II FIBA 統合問題ののち

1. JBA は「2014 年 10 月末迄に統合なければ制裁」との FIBA 勧告を受け、同年 6 月統合に向け改革タスクフォースが結成されましたが、私は、今回の改革は人に例えれば「身体の統一」に過ぎず、根本的解決には「心の統一」が不可欠だと痛感！「心身揃って真の人」なのにこれでは「仏作って魂入れず！改革により問題が逆に深まるのを防ぎ、好転させる必要がある。それには“殿堂”が最適最良と確信したのです。
2. 一方、日本バスケットボール振興会（JBBS）は渡辺誠理事長主導で、JBA の要請もあり既に数年前より記録や記念品・遺物等を整理中でした。そこで JBA&JBBS 両幹部の内諾を得て、2014 年 7 月有志 7－8 人を集い「殿堂タスクフォース」発足、10 月末統合出来た暁に殿堂設立を発表する予定で検討を重ねていました。しかし残念にも統合不成功により 11 月 FIBA 制裁を受けたのですが、私はそれにより殿堂の必要性は更に高まると時の JBA 幹部にも進言。その後、FIBA ワイス TF 共同代表に直接面談、川淵三郎会長や大河正明事務総長にも私信にて、殿堂設立の意義を訴えました。

本年 6 月三屋裕子新会長体制が発足し、9 月からは「B リーグ」の記念すべき初年度が開幕します。従い、今こそ JBA が殿堂設立を宣言する絶好のチャンスなのです。並行して JBA 主導で都道府県の殿堂設立を推奨し、2020 年東京オリンピックはおろか 50 年 100 年後のバスケ界発展への礎をスタートさせる天の時といえましょう。

III 殿堂設立の狙い：効果

1. 殿堂は日本バスケット界の精神的支柱となり、JBA 長期ビジョン達成への思想統一へ向かって先達、功労者を敬う精神風土の醸成を図ります。選手として優れるだけでなく人格高潔になろうとする気運を盛り上げます。心身修養、自律心昂揚、責任自覚！
2. 全てのバスケットボール愛好家達、特に子供達にロマン・誇り・喜びを与え、バスケットボールを愛する精神の共有を図ります。誰もがこぞって大歓迎し人心統一へ！
3. 日本バスケット界の歴史、試合や諸活動を公式記録として管理、公私の記念品・遺品等々の散逸を防ぎ、バスケ界の資産＝財宝として保存し永遠に後世に遺します。
4. メディア露出を増やし、バスケ愛好家を喜ばせ・誇りを持たせると共に、バスケ人口を増やす大きなチャンスに出来ます。殿堂入りの功労者選定・授賞式等々一連のプロセスのセレモニー化により、年中行事としてメディアを通して広く社会に報せ、知名度アップ&良好なイメージ構築を図り、普及活動の一環とします。
5. バスケ関連ビジネスの増加を図り、長期的にバスケ界発展に寄与します。
6. 殿堂入りレジェンド達はそのキャリアを後進の指導やバスケ界の発展に活かします

IV 都道府県に広げる理由

1. “日本殿堂入り”は高根の花！極々限られるが、都道府県なら手が届く目標になり、子供や若い選手が切磋琢磨し優れた人物になろうとするでしょう。メディア露出によって身近なスターや英雄を増やしバスケ人口急増のチャンスを生み出します。
2. JBA を頂点に全国都道府県のネットワーク化により意思疎通が促進され、ガバナンス強化と全国協会の一体化・統一化が図れます。
3. 日本と都道府県の殿堂入りレジェンドが培った卓越した技術やノウハウを子供や若い選手達に公私にて伝授できるネットワークを構築できます。世界との交流も期待！

V 具体的方法

1. 方法：コスト削減の為、当初は「バーチャル殿堂」で開始。JBA は JBBS とのコラボで「バーチャル殿堂作成フォーム」をホームページ上に公開し、記録の入力から取り掛かる。殿堂設立宣言した都道府県はダウンロードして随時入力可能。JBA をトップに全国ネットでリンクしていく。当初構想の様に運営は当振興会に委託するのも一案。
2. ハード：記念物・記録等収集・入力は即刻開始。建物は可能になった時点で。
3. 資金調達・・・「大義」に対する積極的支援協力。バスケへ恩返し期待。
 - ① スポンサー募集：「バスケットボール」のお陰でビジネスに浴している企業
例：ミズノ、モルテン、スポルディング、アシックス、ゼビオ、セノー・・・他
 - ② 企業支援：「バスケットボール」の恩恵に浴している企業
例：トヨタ、東芝、アイシン、三菱電機、新日鉄住金、豊田通商・・・他
 - ③ バスケから人生に潤いと楽しみの恩恵を得た or 得ているバスケ愛好家&篤志家
 - ④ 百円募金（一般個人募金・・・子供も参加可能にする）
4. 「FIBA 殿堂」「米国殿堂」との協力：2014 年 10 月 20 日振興会渡辺理事長と東京 YMCA 訪問、米国殿堂への紹介・諸資料提供協力を要請、快諾を得た。
5. 想定プロセス
殿堂設立構想発表 ➡ 殿堂設立委員会発足&発表 ➡ 殿堂入り候補者選定審査委員会設立&発表 ➡ 審査委員会委員発表 ➡ 候補者選定基準発表 ➡ 候補者選定開始 ➡ FIBA・米国の殿堂視察 ➡ 第 1 回殿堂入り者決定&発表 ➡ 記念式典挙行

VI まとめ

JBA における新体制構築は順調に進展し喜ばしく存じますが、改めて、今こそ「殿堂設立」を宣言すべき絶好のチャンスです。それにより、人心の統一と長期的バスケ界発展の布石を同時に図ることができるでしょう。「殿堂」に反対する人は皆無です。「殿堂」に関わるいろいろな活動そのものが、メディアの話題になり、新旧問わず愛好者やバスケに関係するビジネス界もこぞって歓迎することでしょう。

山見博康（やまみ・ひろやす）略歴 広報・危機対応コンサルタント

1945 年福岡県生れ、68 年九大（経）卒。神戸製鋼入社、91 年広報部長、デュッセルドルフ事務所長を歴任。02 年山見インテグレーター（株）設立。中 1 よりバスケに親しみ「いつでもどこでも誰とでもいつ迄も」をモットーに今も定期的にプレー。国立七大学 OB「Seven Brothers」の一員としてシニア大会出場。

ミニ・中学生クリニックに協力

東京都目黒区立中央体育館主催へ講師派遣

[普及部]

平成28年3月21日、東京都目黒区立中央体育館主催のバスケットボールクリニックに講師として振興会から従野副会長と結城理事を派遣し協力した。

対象は小中学生。地域の社会体育のメッカである地元体育館の主催によるクリニックへの協力で、今回が二回目。昨年は48名であったが、今回はミニから69名、一般公募で15名（うち小学生14名）の計84名の参加であった。特徴としては区報掲載による参加者が昨年に比べ大幅に伸びたこと、小学校6年生（4月からは中学生となる）の参加が36名と40%強を占めたことが挙げられよう。

テーマを昨年に引き続き「シュートを上手くなろう、ステフィン・カーリーになろう」に絞り、指導に当たった。（ステフィン・カーリー：NBAの3Pシューター）

冒頭、従野講師より、バスケットボールへの取り組み姿勢、具体的には下記の点について約20分間、分かり易く説明があった。

- ・常に目標を持とう
- ・常に疑問を持とう
- ・協力は強力なり

次に、結城講師より、下記を要点とする理論に基づき、実践的クリニックが行われた。

- ・バスケットボールスタンス及び視線の高さの重要性
- ・シュートはドリブルの延長であり、最終の形であるとのイメージを持つことの重要性

いずれも詳細な内容は、これまで本誌に掲載されてきたので割愛するが、参加者にとっては元全日本女子チームコーチやオリンピック元日本代表選手から直接指導を受ける数少ないチャンスであり、一言も聞き漏らすまいといった真剣な姿勢が印象的であった。





2時間半にわたるクリニック終了後、恒例により、小学校6年生と中学校1年生の参加者には中学校進学後のバスケットボールや勉学への取り組み姿勢についてのメッセージ文書とバスケットボール英語単語集を手渡し、クリニックを締めくくった。

今回も、地元ミニバスケットボールのコーチの皆様には本クリニックの趣旨をご理解頂き、お世話になった。東京海上日動バスケットボール部からは公式戦最終日の翌日にも拘らず、鍛本ヘッドコーチ、選手2名、女子マネジャー1名の計4名にボランティア参加頂いた。厚くお礼申し上げたい。

なお、本クリニックの一部は動画で近日中に本会のウェブサイトに掲載の予定であり、ご覧いただければ幸いです。

人物抄

日比野 明 さん



日比野さんは昭和5年(1930)東京の生まれで現在85歳、東京新宿区にお住まいでお元気である。昨年一時的に健康を害されたこともあったが最近では振興会の諸活動にも参加されている。

東京高等師範附属中学から附属高校へ進み、昭和24年(1949)早稲田大学理工学部へ編入された。前号人物抄堀さんの紹介でも触れたが、この頃の方々は戦後の混乱期で学校の教室が不足し、旧制と新制の学制変更などもあって編入が多かったようである。

バスケットボールを始められたのは中学の時で、先輩から誘われてのことであった。付属中学時代、チームは結構強く秋に開催される学習院との定期戦では圧勝、関東大会では準決勝で武蔵を1点差で破り決勝で九段と対戦。またもや1点差で勝利して優勝を勝ち取る原動力になった。

日比野さんが早稲田大学バスケットボール部へ入られた頃、大学には体育館がなく練習は屋外コート、体育館での練習がしたくて焼け残っていた都内高校の体育館を借り歩いたという。

日比野さんと言えば後述するようにバスケットボール界に貢献された歴史は簡単に著述できないほど豊富であり、特に審判で活躍されたことは有名である。審判を始められたのは学生時代、早くから学生連盟委員を務められたが、学連の委員は下部リーグの審判をやらなければならなかったようで、明治大学の晨さんや藤堂さん、同じ早稲田大学の香中さんらとともに審判の道に入られた。

昭和29年(1954)早稲田大学卒業後、文化放送へ入社されるが、その当時はテレビ放映が一般化してなく放送と言えばラジオ局が主体であった。

日比野さんに「どうして文化放送を選ばれたのですか」と質問したら、「いくつかの放送局の入社試験を受け、たまたま文化放送に合格したからだよ」とあっけらかんと言う。

学生審判として笛を吹いていたことから昭和30年(1955)に日本協会公認審判資格を取り、3年後にA級審判員、昭和41年(1966)には国際公認審判の資格を取られた。

昭和46年(1971)になると日本協会審判委員会副委員長として、日本協会理事に就任し最初は審判担当理事だったが次第に担当範囲を広げ、調査研究部の仕事や企画部部長として日本協会諸行事の企画運営に当たられ、10年以上にわたって日本協会理事を務められた。当然のことながら所属していた日本学連でも常任理事と広報渉外部長として活躍されている。

審判で活躍していた日比野さんに国際大会の審判として日本代表チームに帯同する機会が回ってきた。昭和46年(1971)、ブラジルで開催される第6回女子世界選手権大会の笛を吹くことになった。主会場はサンパウロ、帯同審判はあちこちの会場で笛を吹くことに



公認審判当時

なったが、当時ブラジルは決して治安が良いとは言えず審判は銃を持った護衛に一人ずつ守られて体育館に行ったそうである。

大会最終日の前日、帯同審判の笛をこなした日比野さんに急いでサンパウロへ来るようにとの連絡が入った。何事かと思って主会場へ行くと、最終日の決勝戦ソ連対ブラジルの試合の審判を担当するようにとのメッセージがあった。

翌日の決勝戦は開催国ブラジルが対戦するとあって会場は超満員、コートサイドは狭く猛暑の中、観客にぶつからないように走ることに汗を流したが、地元ブラジルの反則を吹くと一斉にアイスクャンデーがコートへ投げ込まれ、相手のドイツの審判とともにそれらの片づけをしながらの笛は更に汗だくだったという。

この時の日本代表チーム団長であった稲垣氏（元振興会副会長）は、この大会の報告書の審判について次のように記している。

日比野審判員は、その技術や態度が他の審判に比し非常に優れていた。ソ連対ブラジル、チェコ対ブラジルというメインイベントの審判をされたことは、日本の誇りでもある。

とにかく本大会に参加した審判の多くが、あまりゼスチャアを伴わず判定のみを下すだけであるので、選手にとっては何が何だかわからないこともしばしばあり、随分選手を当惑させていた。あのような騒音の中では、ゼスチャアを大きくし選手や観衆に今の反則は何であるかを明確にすることが、絶対に必要であるように思われた。

日比野さんは勤務先の文化放送でも手腕を発揮されて、計数部長から催し物事業部長に昇格、審判とともに多忙な日々を過ごしていたある日、日本協会専務理事就任の話が持ち上がった。昭和62年(1987)松下電器（現パナソニック）役員だった故遊津さんや、早稲田大学OBの故牧山さんらの推薦によるもので断るすべはなかった。

最近の日本協会専務理事は専任制となってバスケットの仕事に専念できるが、当時は全くのボランティアで、勤務先の仕事をこなしながらの任務遂行は相当厳しかったようである。業務がら、放送局の仕事は午後からが多く夜間に及ぶのは当たり前、明け方まで業務をこなして帰宅し、わずかな睡眠の後、午前中日本協会へ出向いて専務理事の業務に携わり、午後から放送局へ出勤するサイクルが続いた。更に土日は後輩審判育成のため講習会などに出かけなければならず、文字通り休む暇はなかったがバスケットで鍛えた強靱な心身がこの厳境を支えたのであろう。

昭和57年(1982)、現役審判を52歳で引退した日比野さんは、後輩審判の指導や日本学連の役員を務められ、やがて実業団関係の役員と連携を取るようになる。

平成に入るとそれまで実業団のOBで構成されていた実業団協力会という組織を、広く日本のバスケットボール界を発展させるため、学連OBをも含めた組織にしようという機運が高まり、実業団OBと学生OBによる話し合いが始まった。日比野さんは学連役員としてそれに加わり、バスケットボール界発展のためには両者が一体となって新しい組織構成を進めることに賛成する旨を学連に提案したところ最初は猛反対されたという。

しかしながら日本のバスケットボール界をより普及発展させようという趣旨では実連OBも学連OBも一致するところとなり、平成5年(1993)日本バスケットボール振興会が誕

生する。発足した振興会の理事となった日比野さんは、ここでも積極的に業務をこなされた。

後輩でもある初代二宮理事長の下、総務部長という立場で細かい仕事もだまって引き受けられていた。以前から鍛えられた粘り強さで振興会の沿革を調査してレポートにまとめられたり、会員を主とする交流会の企画をしたりと歳は重ねても相変わらずの努力を怠らなかった。

平成19年(2007) 振興会がNPO法人化された際には、総務部長として定款の原案作成や事業計画の企画立案なども含め、法人にふさわしい内容にしなければならないと言って自ら調査研究をされて法人化に一役買われ、翌平成20年振興会副会長に就任され、振興会全体をリードする立場で活躍された。

日比野さんは、現役審判時代は勿論のこと、引退されてからもバスケットボールのルールに精通しておられた。それはいつでもルールブックなどを精読されて表面的なルールのみならず、その精神や適用まで本当の意味でのルール研究も長い間続けられ、オンザコートに現れる事象についてルールに照らし合わせることを怠らなかった。

日比野さんに最近の審判について尋ねると「昔は育成するために叱咤する審判も多かったが、最近ではそういう審判も見当たらず残念だねえ」との言葉が返ってきた。

何事についても真正面から取り組むとともに、常に調査研究を重ねられる姿は現在も変わることなく、振興会歴史部においても活躍されているが、ルールや審判の話になると目の色が変わる様子は日比野さんのバスケット人生を象徴している。



代々木第二体育館での審判



「S O S」 5 周年記念祝賀会

篠原 正邦

2016 年 4 月 2 日、有楽町「ニュートウキョー綴」で STARS OF STARS (S O S チーム) のチーム結成 5 周年記念パーティーを開きました。

日本バスケットボール振興会から、小澤副会長・渡辺理事長のご来賀を賜った上に、選手及びその夫人等 30 名が出席し、和やかに開催されました。



挨拶をする日本バスケットボール振興会 小澤副会長、渡辺理事長と STARS OF STARS 諸山代表

思い起こせば 5 年前のことでした。既に 70 歳近い老人たちが 40 数年ぶりに集まって、選りに選ってバスケットボールのチームを作るとは……。家族や友人知人たちの揶揄とも心配とも非難ともとれる声や顔。

それでも、「昔執った杵柄」よろしく、1966 年卒の同期で、当時の関東六大学バスケットボールリーグで競い合ったメンバーが 9 名集まりました。

チームの決め事はたったの二つだけ。一つ目は「全国シニアバスケットボール交歓大会の試合に出る」こと。二つ目は、そのためにも「月 2 回の練習をする」ことでした。しかし、それに勝る原則は、兎に角「楽しくやろうや」でした。

そしてチームのマネジャー的存在の鈴木進吾氏の計らいで、東京千代田区にある学校等の体育館を練習場とすることに成功、早速練習に取り掛かりました。

初めての練習でしたが、それなりにその道を極めたメンバーたちですから、再度バスケットボールに挑戦するためには、フットワークや体力作りの必要性は判り切っており、老体には多少酷なメニューでしたが、誰一人の文句も無く、黙々且つ肅々で行われました。

しかしながら、40 年以上のブランクは如何ともし難く、フリースローを例にとると、投げたボールはリングにも届かぬような有様でした。

そんなチームでもメンバーはアスリートの端くれ、試合に負けると悔しいし、矢張り本能として勝ちたい。そのためには、より多くの厳しい練習をするしか無い、と言う事は自明の理です。練習を月 4 回に増やし、若手メンバーで戦力を補強し、守備を固め、攻撃力

を高め、次第に「楽しんでやろうや」が「勝つためには何でもやろうや」に変わっていき
ました。

ある時の練習に応援で来てくれた助っ人が、練習後SNSで「高校の部活の様な厳しい
練習で、スリーメンも3往復、その上シュートを落とすと、何回もリピート有りでビッ
クリしたよ。」と呟いていましたっけ。

そんな STARS OF STARS もチーム結成5年にして、今や所属するリーグの中でも優勝
を争えるチームにと変貌を遂げました。結成当時のメンバーたちが徐々にリタイアする中、
唯一チーム自体が存続することが、これから我々の老いた心を温かくくすぐる、かけがえ
のない存在となって行くものだと思います。

こんな老骨に鞭打つこと5年、これまでを振り返ることと家族に理解を深めてもらう意
味も含めて開催したパーティーでは、選手全員が自己紹介を兼ねてエピソードなどを披露。
その中身はほぼ皆さん同じで、練習のきついこと、試合に勝てた思い出、これからも前向
きに頑張る決意表明でした。



SOSチームのメンバーたち



『老師』と呼ばれて

伊藤 聡

小学生の頃の私は、ドッジボールと走り高跳びは得意な方だったが、運動神経がいいとは思っていなかったもので、同級生たちがやっているようなスポーツには挑戦することはなかった。できないことを笑われるのが怖かったからかもしれない。だから、野球などは見ている側で、自分がしようという思いはほとんどなかったと言っていい。しかし、中学に行けば部活動を選ばなければならない。父親のバレーボールの大会を時々見に行っていたのでバレーボールでもやってみようかな程度のことは考えていたように思う。

6年生のある日、父親の会社で社員及びその家族の大運動会が開かれた。引っ込み思案な私はおよそ競技とは関係なくただ眺めているだけであつたのだが、小学生の玉入れに出ることになってしまった。記憶は定かではないが大小様々なボールを自分で選び、高さのある籠に入れて何人かでリレーするものであつたように思う。それぞれが思い思いのボールを手にしていく。誰もが重いボールは避けたようで、当然のように大きく重いボールが残っていた。それがバスケットボールであつた。少しばかり背の高かつた私はアンカーだった。この出来事が中学でのバスケットボール部への入部の動機になったことは言うまでもない。

バスケットボールのバの字もわからないまま飛び込んだ世界であつた。指導者には時々来る高校生の先輩、長距離のランニングは最も苦手で、サボりもしチーム内で仲違いしたこともあつた。強くもないチームだったが、組み合わせがよかったこともあり地区大会では決勝まで進んだ。決勝の相手校の監督から『8番には気をつけろ（私の番号は8）』の声が飛んでいた。どんなことに気をつけろと言っていたのか不明だが、人知れずほくそ笑んだものである。

中学卒業後は地区外の高校へ進学、部活動はしないつもりだったが、下宿先の先輩からの誘いに簡単に乗ってしまい、バスケットボール部に入部してしまった。当時チームは県下でも1・2位を争っており、練習も厳しかった。そんな中では私は全くの初心者のようなものだった。向上心に乏しく努力家ともいえない私にとって学業との両立は難しく、成績は下がる一方で、高い下宿料を払う親のことを考えると学業に専念しないといけなと思い一時部活動から遠ざかった。しかし、意志が弱く、勉学のみには打ち込むことができず、どうせならバスケットボールをやり続けようと部に戻り、結局高校総体兼国体の予選まで続けた。結果は準優勝だった。国体の選抜チームに入らないかと誘いを受けたが学業があるからと表向きかっこよく断った。

大学に進学し、ぶらぶらしていると高校時代に練習試合をした友人から一緒にバスケットボールをやらないかと誘いを受けた。少々悩んだが暇を持て余すよりはいいかとすんなり入部した。小柄なチームで私は178cmのセンターとしてやってきた。東北の190cm台

の大型選手と対等とはいえないまでも五分にやり合えたときなど、先輩や仲間から称賛され内心優越感に浸ったものだった。2年の時、東北インカレで準優勝し初めての全国インカレに出場した。そのとき初めて聖地と言われた代々木第二体育館のコートでプレーすることができた。豪快なダンクシュートに驚き、狡猾なプレーも知った。その時の大型選手には全く太刀打ちができず、試合はいつの間にか終わっていたという感じだったが、代々木のコートは思い出の地となった。

それから40年。今日まで一般のクラブチームやマスターズへの参加などでプレーを続けてきたが、そのおかげでもう二度と立つことはないだろうと思っていた代々木のコートに立てる機会を得た。それが、昨年の『H27 全国シニアバスケットボール交歓大会 in 代々木』であった。奥州市の油井協会長から『あなたに期待しているから』と誘いを受けたときは、ぜひとも行きたいとわくわくした気持ちを抑えられなかったのを覚えている。

もちろん勝ちたい気持ちはあったが、やはり往年のプレーヤーたちにはかなわなかった。期待に沿うことはできなかったものの代々木のコートでゲームができたという満足感があった。今年も参加させていただく予定だが、ただ思い切り楽しみたいと思っている。

退職後にはゴルフに誘われたが、『俺にはバスケットがあるから』と断ってきた。昨年のシニア大会参加を契機に、地元の40代の女子チームの練習に参加させてもらい体を動かしている。

60歳過ぎのプレーを見て陰で『老師』と呼んでいるそうだが、そう呼ばれるのも悪い気はしない。普段の生活の中でぎっくり腰を起こしたり、容易に骨折したりする体になっているし、これまで酷使

してきた膝や腰も悲鳴を上げている。痛いのを我慢しているとそれが当たり前になって健康な体の状態を忘れてしまっている。怪我のないようにとは思いつつも、いつかは引導が下されることだろうが、その日までは『老師』は走り続けるつもりである。

[大船渡市在住]



全国シニア交歓大会 in 代々木 No. 83 伊藤選手



バスケットボール湘南だより（その 14）

◇◇ふたたび幼稚・保育園児へのアプローチを！！◇◇

中瀬 達雄

◆観客を沸かせた幼児のバスケット（平塚フェスティバル）◆

▽フェスティバル初の企画“幼稚園児・保育園児バスケット”

2月11日、平塚総合体育館のアリーナでは 32 回目を迎えた平塚地区バスケットボールのお祭りが開かれた。フェスティバル委員の面々が毎年いろいろな企画を考えている。近くは、「中学1年生選抜チーム対ミニバス選抜チーム」という他地区では見られない(珍?)企画が出て、ミニバス応援関係者を夢中にさせたが、ゲームとしての面白さはもう一步とすることで終わってしまった。そして登場したのが、幼稚園児・保育園児バスケットである。

▽ラグビーの中でのバスケット体験か

2面コートでの体験会は、まずコートサイドでのミニバスゲームの見学である。「ボールを持って走ってはダメ」を、実物を見てわかって貰う狙いで、論より証拠で、思っていたより見学の効果はあった。この後2面2組に分かれての体験プログラムで、柔らかいボールを使ったこともあり、ドリブル、パス、シュートは、思ったよりできるなあと言う感じだった。



(撮影；5月5日・斎藤豊)

最後は、60名近い参加者が、それぞれ4組に分かれて5分間のゲームを2回ずつ経験して貰った。中には全くラグビー状態の子もいたが、全般的には一生懸命にドリブルをつき、何とかパスを繋ごうともしていた子も多かった。

▽ゴール配布⇒体験会⇒幼稚園大会？

昨年9月の開催以来2回目だが、今回は、参加者募集のため各園に直接訪問してポスターを配り、ローカル紙の協力もいただいた。当日は、ボールの色でコートを分け、予め配布のビブスの色でチームを分けるなど円滑な運営を工夫した。

また、プログラムの工夫は、コートへ出る前にミニバスのゲームを見学させたことである。「今ボールを取った。ドリブルするよ、そして止まったら、今度はパスだよ」と、コートサイドでプレイの流れを解説する。これによって、「ボールを持って歩かない」ことを身体で理解して貰えたようである。

結果は、参加者・保護者はもちろん、フェスティバルへ来た観覧者・バスケット関係者からの注目を集め、絶賛の声を聴くことができた。

平塚バスケットボール振興会では、年間3～4回程度はこの体験会を継続的に開催し、ミニバス連盟と連携してミニバス選手発掘の一助にと考えている。

【速報；5月5日・平塚アリーナ開催の体験会は、ミニバス大会の日程の中に中央コート2試合分をとって開催された。2回の計50名の参加者が、ミニバス選手・保護者の見守る中で、ドリブル・パス・シュート練習とゲームを体験した。次回は10月1日のシニア大会の中での開催が計画されている。】

◆広がる幼稚・保育園への幼児用ゴール配布◆

▽平塚の20台から始まって

日本協会のデータによれば、ミニバス選手の登録人数は、2010年度をピークとして漸減・頭打ちの状態が続いているのが実情である。少子化時代だからバスケットに限らず、どのスポーツも同じ事情であろう。

ミニバス選手・チームが減っているときに、究極の対策は幼稚・保育園児確保以外にない。ここに着目した平塚バスケットボール振興会は、昨年、初の試みとして、市内の幼稚・保育園に幼児用ゴールを無料配布し、高い位置のゴールとボールで遊んで貰うところから始めた。

年度	登録人数
2008	151,194
2009	150,448
2010	153,030
2011	150,023
2012	148,800
2013	147,500
2014	146,718
2015	148,568

【プラザ67号参照】

▽関東ミニバス宴会から拡大が始まった

今年の1月、茨城県で開催された関東ミニバス大会の役員懇親会の席上で、この「幼児用バスケットゴール無料配布」を話題に出したところ、早速反響があった。

群馬県ミニバス連盟の会長がその場で「その話に乗った！！」と手を挙げ、その後の群馬県ミニバス関係者の活動で、30台の幼児用ゴールを高崎市内の幼稚園に配布することとなり、メーカーに手配中となっている。

▽神奈川ミニバスから全国へ

さらに、神奈川出身の坂本日本ミニバス連盟理事長から各地方の関係者に、この話を紹介した、こちらにも手ごたえのあったようだ。特に北海道ミニバス連盟が、深い関心を持ったようで、道内の関係組織との連携を進め、？00万円の予算を確保したとの情報も入って来た。

◆日本バスケの底辺ミニバスを支える幼児対策では？◆

▽誰の、どこの仕事か・・・役人スタイルじゃ駄目

以前の本欄で「連盟あって協会なし」と冷やかしたが、別の見方をすると、自分たちの大会に関係ない分野には関心を持たず、手も出さないのがバスケット界の現状と言える。口では「各カテゴリーの連携活動」とか、「ミニからナショナルまでの一貫指導・強化」と叫んではいるが、さて、幼児対策は誰が手を出すのだろうか。

誰の、どこの責任範囲などと言わないで、みんなで力を合せてやりましょうヨ。

[平塚バスケットボール振興会代表、元日本協会・日本実業団連盟理事]



61 年振りの再会

—— 沖縄県立糸満高校と愛知県立明和高校 ——

三谷 千尋

今年の 2 月 27、28 日の両日に、沖縄の糸満市で開催された「全国ゴールデンシニア・バスケットボール大会、第 5 回横浜カップ in 沖縄 2016」を利用して、個人的に過去 61 年間持ち続けていた夢を実現する事が出来たので、此の事に付いてご紹介をさせていただきます。尚、此の出来事は、同大会開催の前日に行われました代表者会議で、大会会長の挨拶の中に「この大会にかけての同窓会の開催もあります」とのお話もあったそうで、関係者の中にはそのご記憶をお持ちの方もおいでになるかと思います。

話が昔に遡りますが、それは昭和 30 年 8 月 7 日のことであります。その年のインターハイが神戸市で開催され、私達愛知県代表の明和高校と沖縄県代表の糸満高校が、1 回戦で顔を合わせる事になり、神戸市の御影高等学校の体育館で対戦を致しました。当時公立高校のチームが普段他県のチームと試合をするなどと言う事は全くありませんでしたから、いきなり海の向こうの沖縄のチームとの対戦を知った時は大変驚きました。そして井の中の蛙的チームであった我々には、それなりに印象深い思い出として記憶に残りました。

烈しい沖縄での戦禍をくぐり抜けた若者が、どんな思いで遠路はるばる神戸まで来て帰ったのか、一度会って話を聞いてみたい思いが、以来私の心の片隅にずっとあったのです。しかし、そんなものは個人の思いに留めて置くしかないと諦めていたのですが、今回糸満市で大会が開催されシルバーキッズも参加すると聞きこの機会を逃す手はないと思いました。大会事務局の玉城雅夫氏（糸満高校 0B）に年賀状を出してその意向を伝えたところ、快くその労を引き受けて下さり、61 年振りの再開が実現する運びとなったのです。



栄冠 我にあり
糸満高校代表決定の記念写真

大会前日の 19:00 に指定された糸満市の某居酒屋に一人で駆けつけましたところ、5 名の関係者が私を迎えて下さいました。何せ、61 年前にコートの上で小 1 時間、時間を共有しただけの関係で、名前も知らず顔も覚えて居ない者同士だけが、仲介者の介在も無く直接会って初めて言葉を交わすわけです。それは何とも言えない緊張感に襲われた瞬間でした。張り詰めた空気の中で、「私が皆様に面会を申し入れた明和高校の三谷です。本日は私の勝手に唐突な申し入れに応えてお集まりくださり、真に有難うございます。」と言う意味合いの挨拶が、私の口から先に飛び出していました。その後は、お互いに言葉を交わしながら昔の事を紐解いて心を通わせる事が出来たのです。その主な内容は以下の通りです。

糸満高校は、3 年生 5 名、2 年生 5 名、そして監督の 11 名で神戸に来たそうですが、スタメンの 3 年生 5 名の内 2 名は既に他界され、2 名は療養中で、主将の 1 名と 2 年生 2 名、そして監督の他に、1 年生で今回の大会役員をしておられた方の計 5 名が出席されました。

私達の明和高校は、3年生7名、2年生2名のチームだったのですが、2年生の一人が他界し、3年生には矢張り療養中の者が3名居りますが、未だ全員と話しが出来ます。78歳ともなれば、致し方ない事です、生きてこうして会って聞いた話を仲間に伝えることができるのは、本当に素晴らしい事だと喜んでいます。

当時の沖縄は、ドル紙幣を使用する日本の中の外国でした。それで本土へ来るに当たり、パスポートを準備し、一日置きに3種類の予防注射を3日も受けたのだそうです。船で鹿児島迄24時間、其処からは何故か日豊線に乗り蒸気機関車で真っ黒になって福岡へ、神戸到着には20時間を要したそうです。鉄道の無い沖縄の若者には驚きの体験だったそうです。神戸では旅館を利用せず、裏六甲にある私学で当時先生をしておられた先輩の世話で、その学校の合宿所に自炊して泊まり、山を越えて試合の会場へ通ったと聞きました。当時名古屋から準急で2時間半かけて神戸に着き、市内の旅館に泊まった私達とは余りにも違う環境に、只驚いて耳を傾けました。

しかしこのような労苦などは、当時の若者にとって自分達が沖縄の代表であると言うプライドや心の支えがあって、何でも無かったということも聞く事が出来ました。確かに当時の高校生の心には、県の代表となる事以外に全国大会に出場するという事には、日本の未だ知らぬ土地に行く事ができるという楽しみも、多くあったように思います。情報網やインフラ等の整備状況も未だ今とは比べ物にならぬ時代でした。私はグラウンドで練習し日焼けした身体でしたから、自分達よりも日焼けした沖縄のチームを見て、あの時はホッとしたと言いました。

彼等は「全国大会に出てくるチームは、皆体育館のある学校ばかりだと思っていたが、それは本当か。」と言うので、持って行ったクレイのコートで写した当時の写真を見せました。自慢ではありませんが、私は小学校から大学まで、母校の講堂や体育館建設の積立資金ばかり支払って学業を終了させてもらった身分です。彼等もクレイのコートで写した写真を持参して来ていました。米軍基地のハイスクールチームと練習試合をする時に、唯一体育館でバスケットをすることが出来たので、それが楽しみだったと言っていました。私達も名古屋市内にあったアメリカンスクール・チームと試合をした事があります。其の時は米軍に接収されていた市の公会堂内の体育館で試合をする事が出来ました。床板が新しく敷き詰められピカピカに光っていたのを思い出します。こんな経験の話は、お互いの気持ちをぐっと近付ける事に役立ったようです。似たような釜の飯を食べた者同志ということなのではないでしょうか。

こんな話もありました。当時学生が宿泊施設を利用するときはコメを持参したものでした。



当時の糸満高校コート



当時の明和高校コート

しかし、彼等は米ではなく、免税品のウィスキー(ジョニ黒)を1人が3本持たされて、お世話になった所に配ったのだそうです。全く本土の者には別世界の話です。

私達は、お互いに言葉を交わしたことは一度もありません。ゲームの時もその後も、顔も名前も覚えて居ません。しかし、あの日あの時、公式の舞台の上で、お互いが主役を演じ合っただけと言う事実とその記憶は持ち合わせているのです。その者同士で、その事実と記憶を今回確認し合うことが出来ました。それに何の意味があるのかと言う疑問も自分の中には少しあります。しかしそれは当人同士だけの知るところ、感じるころだと思えます。今回の出会いにどんな意味があったのか、これが何をもたらしてくれるのか、それはスポーツの醍醐味として隠されているような気がします。やがて形となって現れる事でしょう。次の出会いに繋がるきっかけに屹度なるだろうと思っています。それで十分でしょう。

当日は、先にも少し述べましたように、参加した各チームの代表者会議が19時から那覇市であり、これに出席していた玉城雅夫氏を始めとする大会関係者4名と名古屋から参加したフリーダムの野寄正一氏(明和高校の2年後輩)他2名が、会議終了後駆けつけてくれましたので、其れからは総勢12名の賑やかな話の場となりました。

糸満市へ行ってバスケットをするのなら当時のメンバーの方々に一言挨拶をしてからでなければ、という身勝手な私の想いに多くの方々が応えて下さり、思いを遂げる事ができましたことは、真に感謝に堪えません。

私の粗末な細く長いバスケット人生の糸の先に、満たされるものがありました。私の糸満です。これはやろうとして、できた事ではありません。そして沖縄バスケットのルーツには、糸満高校のバスケットが深く関わっている事も知りました。バスケットをして、そしてその糸を切らさず続けて来られて、よかったとつくづく思います。

これをお読みいただく皆様の中にも、もう一度、あの日、あの時の思いを共有したあの人達だけには是非会って心を通わせて見たいと思っておいでになる相手があるのではありませんか。どうぞ迷わずお試してください。きっといい出会いが待っていることでしょう。

バスケットを愛してやまない皆様の益々のご発展とご多幸を祈ります。

[神戸シルバーキッズ一員]



明和高校昭和31年卒メンバー
神戸王子体育館前にて



再開の5名(左上2名と左下3名)
当日の関係者とともに

TK・bjリーグ 終決

11年間にわたるプロリーグが有終の美

[編集部]

ターキッシュ エアーライン (TK) bjリーグは、イースタン、ウェスタンのカンファレンスに別れて、昨年10月2日から本年4月24日までに各チーム52試合を戦うレギュラーシーズンを終え、各カンファレンス上位8チームがプレーオフに進んだ。

[レギュラーシーズン成績]

イースタンカンファレンス

ウェスタンカンファレンス

順位	チーム名	勝-敗	勝率%	チーム名	勝-敗	勝率
1	富山グラウジーズ	39-13	75.0	京都ハンナリーズ	41-11	78.8
2	仙台 89ERS	37-15	71.2	琉球ゴールデンキングス	40-12	76.9
3	秋田ノーザンハピネッツ	35-17	67.3	島根スサノオマジック	37-15	71.2
4	新潟アルビレックス BB	34-18	65.4	浜松・東三河フェニックス	36-16	69.2
5	岩手ビッグブルズ	30-22	57.7	滋賀レイクスターズ	35-17	67.3
6	福島ファイヤーボンズ	30-22	57.7	大阪エヴェッサ	35-17	67.3
7	信州ブレイブウォリアーズ	27-25	51.9	金沢武士団	27-23	54.0
8	青森ワッツ	23-29	44.2	ライジング福岡	20-32	38.5
9	群馬クレインサンダーズ	22-30	42.3	バンビシャス奈良	17-35	32.7
10	横浜ビー・コルセアーズ	19-33	36.5	大分・愛媛ヒートデビルズ	16-34	32.0
11	埼玉ブロンコス	5-47	9.6	高松ファイブアローズ	11-41	21.2
12	東京サンレーヴス	5-47	9.6	広島ライトニング	1-51	1.9

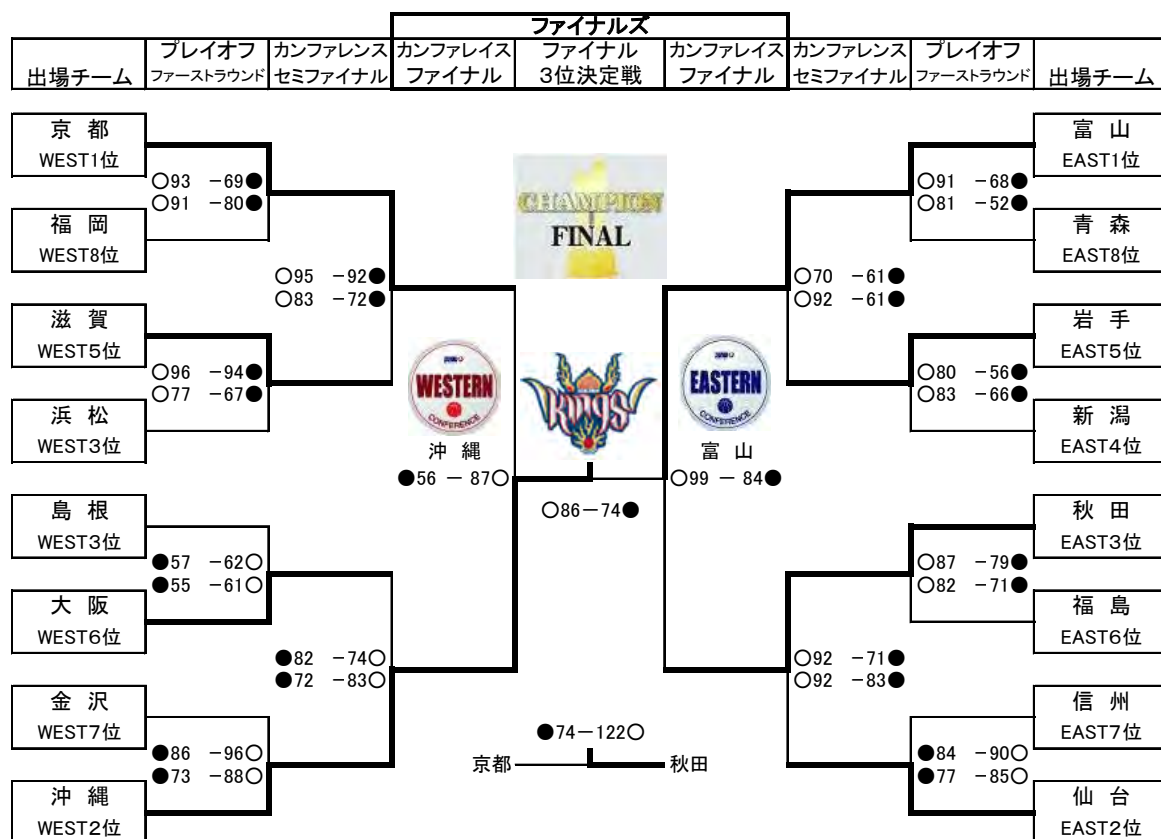
プレーオフは各カンファレンスそれぞれで上位8チームにより4月30日から5月8日までトーナメント方式により行われ、各カンファレンス上位2チームがファイナルズに進む。

[ファイナルズ進出チーム]

イースタンカンファレンス、富山グラウジーズ (1位)、秋田ノーザンハピネッツ (3位)
 ウェスタンカンファレンス、京都ハンナリーズ (1位)、琉球ゴールデンキングス (2位)
 (順位はレギュラーシーズンのもの)

TK・bjリーグファイナルズは東京・有明コロシアムで開催され、5月14日は各カンファレンスにおけるファイナル戦、5月15日はbjリーグ今年度のファイナル戦で優勝決定戦と3位決定戦である。その結果、沖縄琉球ゴールデンキングスが4度目の優勝を飾った。準優勝は富山グラウジーズである。

[プレーオフとファイナルズの結果]



2005年に6チームで始まったbjリーグは、この11年間発展を続け、チーム数は4倍の24チームとなり観客動員数については年間100万人を達成した。また、11年間の総観客動員数は800万人を超えるとともに、上記ファイナルズにおいては有明史上最多となる11,038人の観客動員となり、観客数からみればNBLをはるかに上回っている。

当初は日本初のプロバスケットとして成り立っていくのかどうかと危惧されたが、各チームの努力が効果をみせ、チーム数の増加と相まって観客動員数も増加し、強力なスポンサーの後押しもあって見事プロとして運営されてきた。

この陰には河内コミッショナーをはじめとする関係スタッフが、徹底した観客動員策を企画し、試合会場やその運営に工夫を傾注して観客のリピーター化を実現した努力が隠されている。

2005年にスタートしたbjリーグは今回が最終シーズンとなり、2016シーズンからは現在のNBLと合併したBリーグとなり、新しい国内トップリーグとして再出発する。2016シーズンから開催されるBリーグにおいては、観客動員策はもとよりスポンサーの獲得、情報のネット配信などbjリーグに見習うべき点は多々あるのではなかろうか。

聞くとによると、bjリーグ事務所のスタッフはリーグ終了とともに、今、再就職活動が続いているという。殆どのチームはBリーグにおいて再出発が可能となるが、事務スタッフの立場は厳しいものがある。特別なノウハウを持ち合わせたこれらスタッフが、このままバスケットボールから遠のいていくのはあまりにももったいない。

N B L も最終ファイナルへ

[編集部]

昨年10月からスタートしたN B L 2015～2016 シーズンは、レギュラーシーズンを終え、プレーオフトーナメントへ入った。このプラザがお手元に届くころには優勝チームが決定する予定である。

プラザ編集発行日程の関係から、途中成績までしか掲載できないことをご了承いただきたい。N B L も T K ・ b j リーグ同様、次のシーズンからBリーグとして再スタートするが、観客動員数だけをみると、2016 シーズン以降の運営が心配されるチームもある。

それにしても千葉ジェッツの観客動員数は群を抜いている。本拠地は千葉県船橋市で、聞くとところによると市がバックアップして球団を盛り上げ、ホームコートも市立船橋アリーナが確保されている。

順位	チーム名	勝ー敗	勝率%	平均観客動員数
1	トヨタ自動車アルバルク東京	47ー 8	85.5	1,668
2	リンク栃木ブレックス	43ー11	79.6	2,601
3	東芝ブレイブサンダース神奈川	37ー17	68.5	1,005
4	アイシンシーホース三河	35ー18	66.0	2,206
5	日立サンロッカーズ東京	34ー20	63.0	1,342
6	レバンガ北海道	28ー27	50.9	2,692
7	三菱電機名古屋グレイズ	27ー28	49.1	1,381
8	千葉ジェッツ	22ー33	40.0	3,575
9	広島ドラゴンフライズ	17ー38	30.9	1,341
10	熊本ヴォルターズ	13ー36	26.5	1,550
11	西宮ストークス	13ー41	24.1	903
12	サイバーダイネミクス	8ー47	14.5	762

[レギュラーシーズン成績]

上記表で試合数が異なるケースは熊本地震の影響によって試合が中止されたため。各チームの順位は勝率によって決まる。

[プレーオフファイナル]

5月13日から開催されたプレーオフクォーターファイナルは、レギュラーシーズン上位8チームのトーナメント方式で行われ、レギュラーシーズン上位4チームがいずれも2連勝して次のセミファイナルへ進出した。

そして3回戦制のセミファイナルでは、東芝ブレイブサンダース神奈川とアイシンシーホース三河が勝利し、5月28日から行われるプレーオフファイナルへ進んだ。

訃 報

小山 仁一 氏 平成28年3月4日 享年 82

長年にわたり、振興会会員として、日本バスケットボール界発展のため多大なご尽力を賜りました。

ここに、謹んで哀悼の意を捧げ、ご冥福をお祈り申し上げます。

事務局だより

◇会費納入のお願い

平成28年度分の会費を納入下さいますようお願いいたします。会費納入のご案内を別紙にて同封いたしましたので、よろしくお願い申し上げます。

また、月刊バスケットボール誌を購読されている方は会費以外に一部負担金4,000円の納入もお忘れなく。

<振込み口座番号>

ゆうちょ銀行

振り込み口座番号 00100-3-316035

NPO法人日本バスケットボール振興会

(同封の振り込み用紙をご利用下さい)

三菱東京UFJ銀行

神保町支店

普通預金口座 1684743

特定非営利活動法人日本バスケットボール振興会

みずほ銀行

丸の内中央支店

普通預金口座 1004687

特定非営利活動法人日本バスケットボール振興会

プラザ こぼればなし

- ◇ 本文に総会報告記事が掲載されているが、当振興会は、事業活動計画で第1の柱に、日本協会の活動に協力し必要あれば提言して活動を支援することを挙げている。最近バスケットボール界で一部の方々に日本協会の活動を批判または阻害する言動が報道されているが、当振興会では一切関与していない。当振興会は日本協会以外の関連団体にもバスケットボール界の発展のために必要な協力を惜しまず実行している。会員の皆様にはこの趣旨をくみ取って是非当振興会の活動にご協力頂きたく。
- ◇ 前号でリオ・オリンピック男子世界最終予選組み合わせが知らされたが、これを勝ち抜きオリンピック出場を勝ち取ることは非常に難しいと思われる。したがって、さらに先を目指して、将来性ある若手を男子日本代表に選んではいかがであろうか。21歳以下のユニバーシアード代表では若過ぎるであろうか。例えば、25歳以下を主力にこの歳を超える選手を2～3名に抑えるなど。是非、多くの若い有望な選手に国際ゲームを経験させたいものである。
- ◇ WJBLはプレーオフ／ファイナルを3月10日から開催し、JX-ENEOSが15日に3勝1敗で富士通を抑えて優勝した。本誌69号の「こぼればなし」で日本の代表チームJX-ENEOSを応援したつもりであるが、このファイナル第2戦での惨敗はいただけない。4戦の全試合で70点を超える得点をしていながら、第2戦では176cmの山本選手に3Pシュート7本を含む28点を決められている。特に第1ピリオド終盤に富士通の町田選手、山本選手に外郭から連続シュートを決められたにもかかわらず、JX-ENEOSがゾーンディフェンスのまま、相手に余裕を持ったシュートを打たれている。ここで抑えていれば25点ビハインドのゲームにはならなかったのではなかろうか。特に日本代表選手となられる皆さんは国際ゲームの展開も念頭に入れ、切磋琢磨し精進して臨機応変できる力をもってほしい。
- ◇ 日本女子代表候補チームが世界の強豪オーストラリアに大敗した。渡嘉敷選手が不在であってももっと得点を稼いでほしい。フィジカルで勝る世界の強豪には80点の失点は覚悟せねばなるまい。日本代表はひと試合80点以上の得点能力が必須である。男子も同様で、個人プレイでは難しいのでチームとしての積極的な点取り策を、監督、コーチはもちろん選手も真剣に考えてほしい。このような意識は、トップリーグの各チームも、特に日本代表選手を有するチームは、常に持つべきではなかろうか。
- ◇ 今回の本誌70周年記念にあたり、皆様から便りを頂けますようお願いいたします。神奈川県中瀬さんからは毎号連載を、滋賀県須田さんからはご自身のご経験を、今回も兵庫県三谷さんから近況を、それぞれ頂いて会員だよりが賑わっています。今後さらに記事の充実を図りたいと、特に全国各地それぞれにおけるバスケットボール関連の紹介がほしいものです。皆様、ふるってのご寄稿を。

NPO法人
日本バスケットボール振興会
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-40
豊明ビル 301号室
電話／FAX (03) 3219-9311
メール sinkokai@jbbs.jp



野菜・食材だけでなく 白髪染めも安心なものを

植物原料100%から生まれた
自然派の白髪染め&トリートメント

化学の力に頼らず安心して白髪を染めることが出来る。
自然界には天然の色素を持つ植物が沢山存在します。
ヘナがその代表的な植物であり、天然の染色力を持つだけでなく、素晴らしいトリートメント効果をあわせ持ちます。頭皮と髪を傷めずに美しく艶やかに染められるのが大きな特徴です。

白髪染め + 潤い・ツヤ + ハリ・コシ



グリーンノートヘナ・ヘナスーパー

オレンジブラウン ...1500円+税
ライトブラウン・ナチュラルブラウン ...1600円+税
スーパーブラウン（早染め） ...2200円+税

オーガニータ（エコサート認証ヘナ）

ビターオレンジ・ノンカラー ...1800円+税
サハラブラウン・アースブラウン・ディープブラウン ...2300円+税
ノンカラー ...1600円+税

株式会社 グリーンノート ☎ 03-3366-9701 詳しくは公式サイトをご覧ください ▶▶ <http://www.henna.co.jp>

横浜中華街 世界チャンピオンの肉まん

皇朝点心舗



1個100円(税込)

※各種お土産取扱店

楽R天
YAHOO! JAPAN
第1位 第2位

世界チャンピオンの肉まん
WORLD CHAMPION
NIKKEI プラス1
なんでもランキング



皇朝レストラン

ぐるなび
2011年 2012年
食べログ 皇朝レストラン 横浜店
第1位 第2位

時間無制限!

食べ放題

120種以上 1,990円~ (税込)
※点心飲茶



王朝 (担担麵)

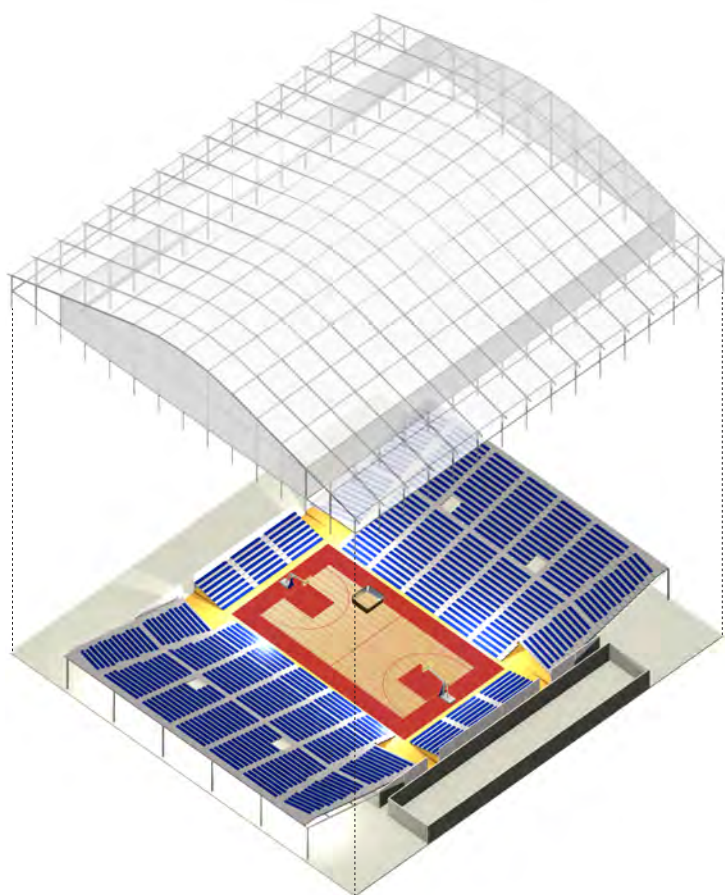


中華街初、こだわり健康担々麺! 特製ツカメ練り込み麺使用の担々麺をはじめ、
お料理 50 種以上、麵・ご飯 20 種以上、お酒 20 種以上をご用意!

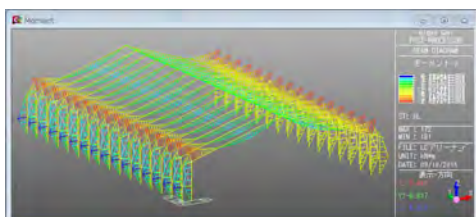
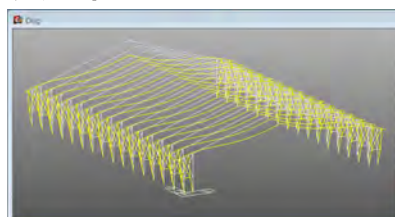


安全性、経済性を追求した LCアリーナ!!

※LCとはLow Costの略称



安全性 3次元解析による構造最適化と安全性確保



経済性を追求

	5000人LCアリーナ	一般的な5000人アリーナ
席数	5,214席	6000～7000席
延床面積	5,250～5,900㎡	20,000～30,000㎡
工期	2ヶ月程度	2～2年半程度
工事費	10億程度	100～230億